

月～6年間連続してP増高が現われたが、I群では末期のみに現われた者が多かった。Pの終始正常と見られた者はI群4名(28.5%)II群7名(31.8%)III群7名(25.1%)であった。以上の様な心電図の主要所見と41名の剖検所見の中最も多くみられた心筋 Fibrosis 肺 Athelc fasis 肺うっ血浮腫、心拡張肥大とを対比してみたが、I群15才以下のP増高と Fibrosis Athelcfasis との頻度が関連するが、年齢の進む程 Fibrosis との関連が多くなる傾向があり、それとII群III群のS-T-T降下とIII群のP増高、deep Q, RR' とは頻度での関連があると思われた。

〔むすび〕

病初から死亡までの進行経過からみると早期死亡例と20才以上の様な年齢の進んだ死亡例とは主要な心電図所見の進み方でかなり違った特徴が現われていて予後的な推測に役立つと思われた。又年齢の進む程 Fibrosis との関連が多くなる傾向がみられた。

15 PMDの Motor unit potential における late component について (予報)

国療箱根病院

村上慶郎 岡崎 隆
中村正敬

Neurogenic atrophy, denervation の筋に針電極を使用してEMGを行う際、刺入後 main motor unit potential のあとに数ヶの小さい potential が出現することがあり、Borensteinらはこれを late components と称している。この potential は正常人の筋にも数%以下に出現するといわれている。

私共は筋疾患についてこの late components について検討を行った。

正常人対照として脊損による対麻痺患者の上腕二頭筋(両側)11例について行った。年齢は20才から52才、全部男性である。

進行性筋ジストロフィー症9例(Duchenne型4例、LG型3例、FSH型2例)について検討した。いずれも男性で年齢は18才から40才までであった。又、K-W病2例(18才、36才の男性)についても行った。

結果は正常人11例中1例に late components をみた。Duchenne型4例はいずれも出現しなかった。LG型、FSH型には各々1例づつみられた。K-W病は2例共出現していた。このK

—W病の late component は1ケのみでなく数ケ続いて出現した。

この late components の出現の意義については不明であるが神経の再生現象、あるいは sprouting に関係しているとの考えが有力である。私共の症例は余り多くなく、今後、症例を増やしてさらに検討する予定である。

16、筋ジストロフィー症における消化器 障害について — 特に Myotonic dystrophy について —

国療箱根病院

中村正敬 岡崎 隆
村上慶郎

Myotonic dystrophy には、腹痛、下痢、便秘などの消化器系の症状のみられることが多い。私共はこのような消化器症状を呈する4例の Myotonic dystrophy について、二、三の消化器系の検索を行った。

検便の成績は4例とも異常は認められなかった。糖負荷試験では一例が境界型であった。他は正常であった。消化器症状発作時の血清及び尿アマラーゼ値は正常であった。消化管の×線診断では、食道、胃にはいづれも著変を認めなかった。また胆嚢造影でも異常を認めなかった。大腸の注腸造影では、haustra の形成不良、atonic colon の所見が全例にみられ、2例に横行結腸の拡大、異常な蠕動運動がみられた。

Myotonic dystrophy の消化器症状については oesophagus、colon の拡張、異常な蠕動運動、胆嚢症などの合併症が報告されている。胃の拡張はこれらにくらべて少ないとされている。Kohn らは2例の colon の拡大と haustra の消失、激しい下痢を伴った Myotonic dystrophy を報告している。また Goldberg も colon が拡大し、完全に atonic になった一例を報告している。

これらの原因として smooth muscle の Myotonic dystrophy によるものであると考えられている。私共もこのような立場から今後種々の smooth muscle の機能及び組織学的な検索を進めて行く予定である。

S P M A 4例中1例は異常であり、1例は borderline であり、残り2例は正常であった。知能指数 (W A I S) との関係は abnormal, borderline のものに低値の傾向にあったが、特に

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

Neurogenic atrophy, denervation の筋に針電極を使用して EMG を行う際、刺入後 main motor unit potential のあとに数ケの小さい potential が出現することがあり、Borenstein らはこれを late components と称している。この potential は正常人の筋にも数%以下に出現するといわれている。

私共は筋疾患についてこの late components について検討を行った。

正常人対照として脊損による対麻痺患者の上腕二頭筋(両側)11 例について行った。年齢は 20 才から 52 才、全部男性である。